

巻頭言

『やまぐち学の構築』第八号をお届けする。本プロジェクトの理念・目的は、地元山口県の有する、歴史的・文化的な固有性を解明し、学問的裏付けに基づく「やまぐち学」を構築することである。地域の固有性（アイデンティティー・尊厳）と全国的・世界的普遍性を、対概念として捉えて探究しようとしている。

本プロジェクトは、発足して八年を経過しようとしている。毎年一冊の本誌は、八号となった。平成二十一年度に、本誌の発行に加えて「やまぐち学シンポジウム」を開催することにし、「萩藩研究の新展開」のテーマで開催した。平成二十二年度には、「考古学から見た山口県の文化交流」のテーマで開催した。

今年度は、十二月十七日（土）に共通教育棟一番教室で、「大内氏と文化振興」というテーマで第三回のやまぐち学シンポジウムを開催した。今回は大内氏歴史文化研究会との合同シンポジウムとし、山口市教育委員会とわがプロジェクトの主催とした。もちろん人文学部にも共催をお願いした。シンポジウムの基調報告は、人文学部の真木隆行准教授「大内盛見の寺社興隆策」と、尾崎千佳准教授「新撰玖波集と長門住吉法楽百首和歌」の二本であり、内容の充実した報告であった。つづいて山口県立大学准教授伊藤幸司氏の司会で、「大内氏と文化振興」のディスカッションが行われた。真木氏・尾崎氏・伊藤氏のほかに、山口県立美術館学芸員荏開津通彦氏、山口市教育委員会文化財保護課佐藤力氏、以上五人のパネリストの発言を交えて、活発な討論が行われた。日本中世史、国文学（俳諧・連歌）、美術史、考古学という多彩な専門家が集まったおかげで、豊かな内容のシンポジウムとなった。地域連携というと、言うは易くなかなか進まない事柄であるが、今回は着実にその輪がひろがりつつあることを実感したシンポジウムで、一二〇人を超える参加者を得て、盛会であった。参加いただいた皆様に感謝したい。

本プロジェクト構成員

田中誠二 人文学部教授 歴史Ⅱ文献班、日本近世史、班長、プロジェクト代表

瀬戸 厚 人文学部教授 歴史Ⅱ文献班、日本近現代史

橋本義則	人文学部教授	歴史Ⅱ文献班、日本古代史
森下 徹	教育学部教授	歴史Ⅱ文献班、日本近世史
木部和昭	経済学部教授	歴史Ⅱ文献班、日本近世史
真木隆行	人文学部准教授	歴史Ⅱ文献班、日本中世史、企画編集委員
中村友博	人文学部教授	歴史Ⅱ考古班、考古学、旧石器・縄文、班長
村田裕一	人文学部准教授	歴史Ⅱ考古班、考古学、石器・金属器、企画編集委員
田畑直彦	埋文資料館助教	歴史Ⅱ考古班、考古学、弥生
横山成己	埋文資料館助教	歴史Ⅱ考古班、考古学、歴史考古学
湯川洋司	人文学部教授	文芸Ⅱ民俗班、民俗学
坪郷英彦	人文学部教授	文芸Ⅱ民俗班、民俗学
有元光彦	教育学部教授	文芸Ⅱ民俗班、国語学、方言
尾崎千佳	人文学部准教授	文芸Ⅱ民俗班、国文学、俳諧、企画編集委員

二〇二二年三月

プロジェクト代表 田中誠二

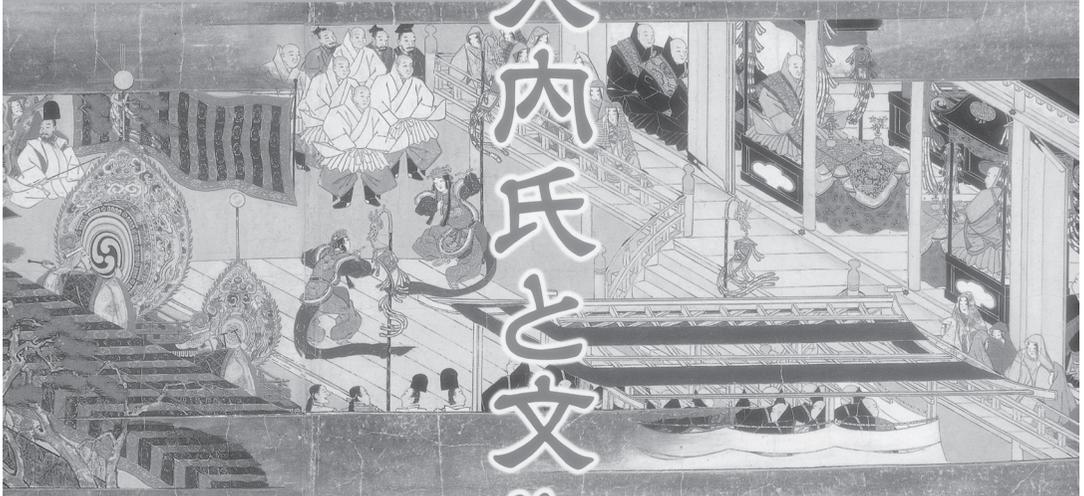


大内氏歴史文化研究会 & 山口大学研究推進体やまぐち学推進プロジェクト



合同シンポジウム

大内氏と文化振興



「桑実寺縁起絵巻」(部分、近江八幡市桑実寺所蔵)

◆ 基調報告

- 真木 隆行 (山口大学)
「大内盛見の寺社興隆策」
- 尾崎 千佳 (山口大学)
「新撰菟玖波集と
長門住吉社法楽百首和歌」

日時 2011年12月17日
13:30~16:30 (13:00開場)

会場 山口大学 (吉田キャンパス)
共通教育棟1番教室

◆ ディスカッション

「大内氏と文化振興」

- 伊藤 幸司 (山口県立大学)
- 荻関津 通彦 (山口県立美術館)
- 佐藤 力 (山口市教育委員会)
- 真木 隆行 (山口大学)
- 尾崎 千佳 (山口大学)

入場無料

事前の申込
不要



「住吉神社法楽百首和歌短冊」(部分、下関市住吉神社所蔵)



主催 山口市教育委員会
山口大学研究推進体やまぐち学推進プロジェクト
共催 山口大学人文学部

問合せ 山口市教育委員会文化財保護課
山口県山口市春日町5-1 ☎083-920-4111